

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	市産材利用拡大推進事業			事業コード	2002
所属コード	142000	課等名	林政課	係名	林政係
課長名	高橋 山雄	担当者名	平山 久枝	内線番号	6054
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要 (旧総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系 (旧)	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	活力ある農林業の振興	コード	1
	基本事業	生産基盤の整備	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 6 款 2 項 2 目 市産材利用拡大推進事業 (019-02)			
特記事項 (H26)				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度	
根拠法令等 (H26)				

(2) 事務事業の概要

盛岡市域で産出される木材 (市産材) を広く P R し, 木材の需要拡大を推進する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

木材価格の低迷や林業労働者の減少により, 林業の生産活動が停滞し, 森林の持つ公益的機能の低下が危惧されることから, 森林資源の循環による林業の活性化と公益的機能の維持増進を図るため, 市産材の利用拡大を推進することが急務となっている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

盛岡市内の森林は成熟化しており, 市産材の利用拡大により間伐等を促進し, 森林資源の循環を図る必要がある。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

森林

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 見込み	26年度 実績
A 民有林	ha	48,168	48,168	48,168	48,168	48,168
B						
C						

(3) 26年度に実施した主な活動・手順

- ・木材利用推進方針に基づき, 市営建設工事については基本的に市産材を利用することとし, 関係課にその徹底を依頼した。
- ・市産材利用をPRするため, 町内会等が簡易な木造施設等を整備する際, 市産材を原材料として支給した。(ゴミ集積所やベンチ等)
- ・緊急雇用創出事業(震災等緊急雇用対応事業)を活用し, 森林資源を活用した「絆の輪」プロジェクト事業を実施し, 環境教育の推進及び人と人との支えあうコミュニティづくりを推進した。
- ・市産材を利用し新築や増改築を行う住宅に対し, 補助金を交付した。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 市営建設工事の市産木材使用量	m ³	272	100	92	157	122
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

市産材の利用拡大により, 森林資源の循環と森林の適正管理を推進し, 林業振興と森林の持つ公益的機能の維持増進を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績	
A 市域素材生産量	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m ³	資料としている岩手県林業動向に盛岡市内数値が公開されていないため記載できず。					
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持							
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持							

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①国	千円					
	②県	千円	0	7,274	7,969	7,692	7,668
	③地方債	千円					
	④一般財源	千円	800	513	1,672	1,750	1,623
	⑤その他()	千円			1,250	1,250	1,177
	A 小計 ①～⑤	千円	800	7,787	10,587	10,692	10,468
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	240	240	310	310	310
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	960	960	1,240	1,240	1,240
計	トータルコスト A+B	千円	1,760	8,747	11,827	11,932	11,708
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

森林資源の循環により林業振興が図られる。

② 市の関与の妥当性

市産材の流通促進を図り、盛岡市の林業振興を推進するために市が実施する必要がある。

③ 対象の妥当性

市産材の流通拡大することにより、森林がもたらす森林所有者への利益が増加し、それが林業振興に直結する結果となるため妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市産材の利用が進まないと森林資源の循環が滞り、林業が衰退する。林業の衰退は、市民生活を守っている水源かん養及び土砂流出防止等の公益的機能の発揮が十分にできなくなる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

市産材の利用を拡大するためには、利用量の多い民間の一般住宅へ供給する流通ルートを確立する必要があり、そのためには市産材を利用した住宅に対する補助制度が有効である。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

市産材の流通拡大は、林業振興を図るうえで必要であり、その体制整備が急務であるため市が実施する必要がある。

(4) 効率性評価

実施している各種補助事業は例年予算を使い切る状況にあり、成果維持のためにもこれ以上の削減は困難である。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	農林業の振興	コード	21
	小施策（推進項目）	生産基盤の整備	コード	2

(2) 改革改善の方向性

事業内容を精査し木材需要拡大推進事業と統合する必要があり、予算事務事業上はすでに平成 27 年度から統合されている。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

平成 24 年度から実施している市産材利用住宅補助制度について、予算を超える申請が今後も予定されることから、予算規模の拡充を検討する必要がある。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市民の市産材利用に対する市の関与の歴史は浅く、これからである。公共施設だけでなく、市全体で市産材を利用することが普通になっていくよう、創意工夫しながら推進する必要がある。